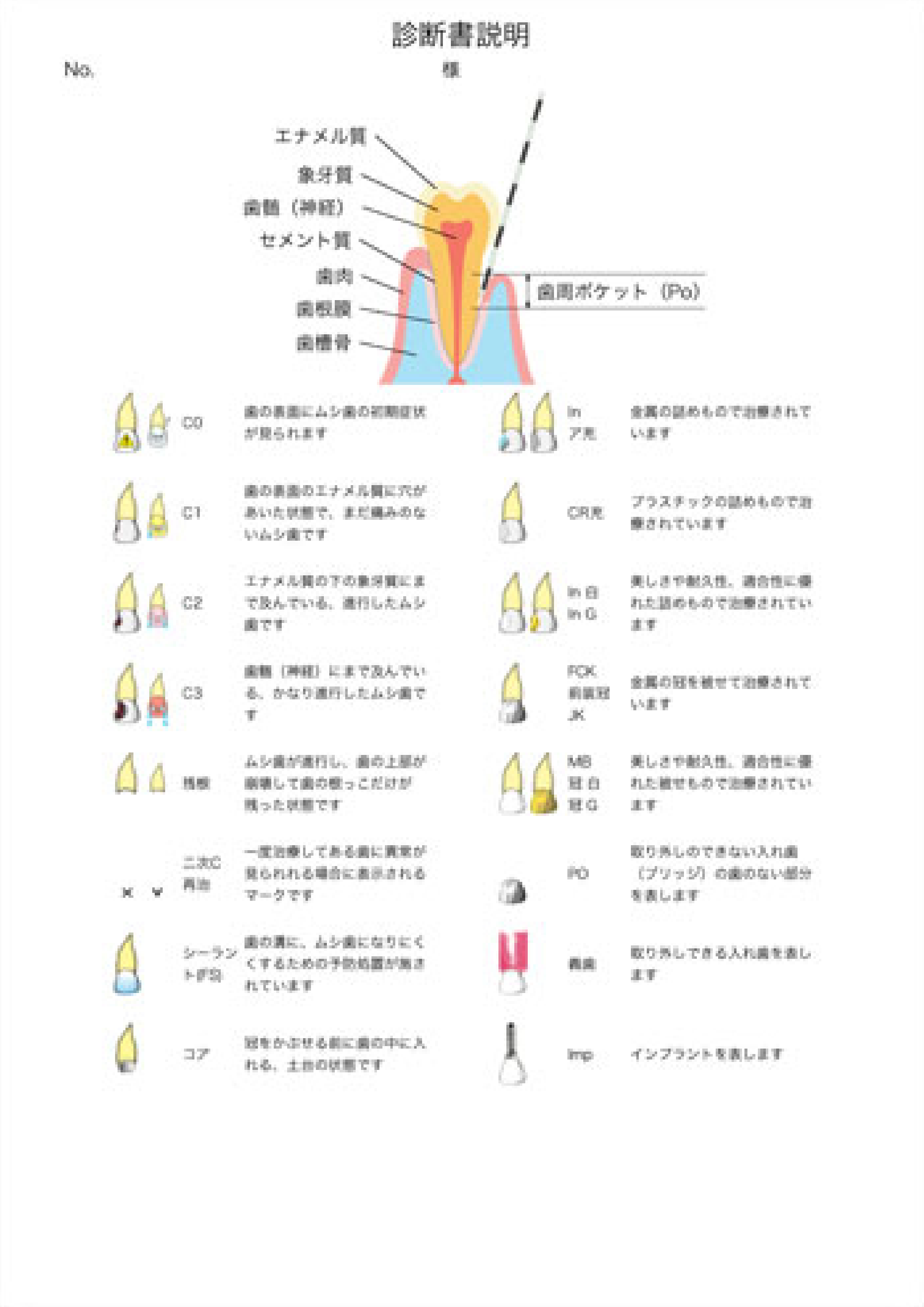
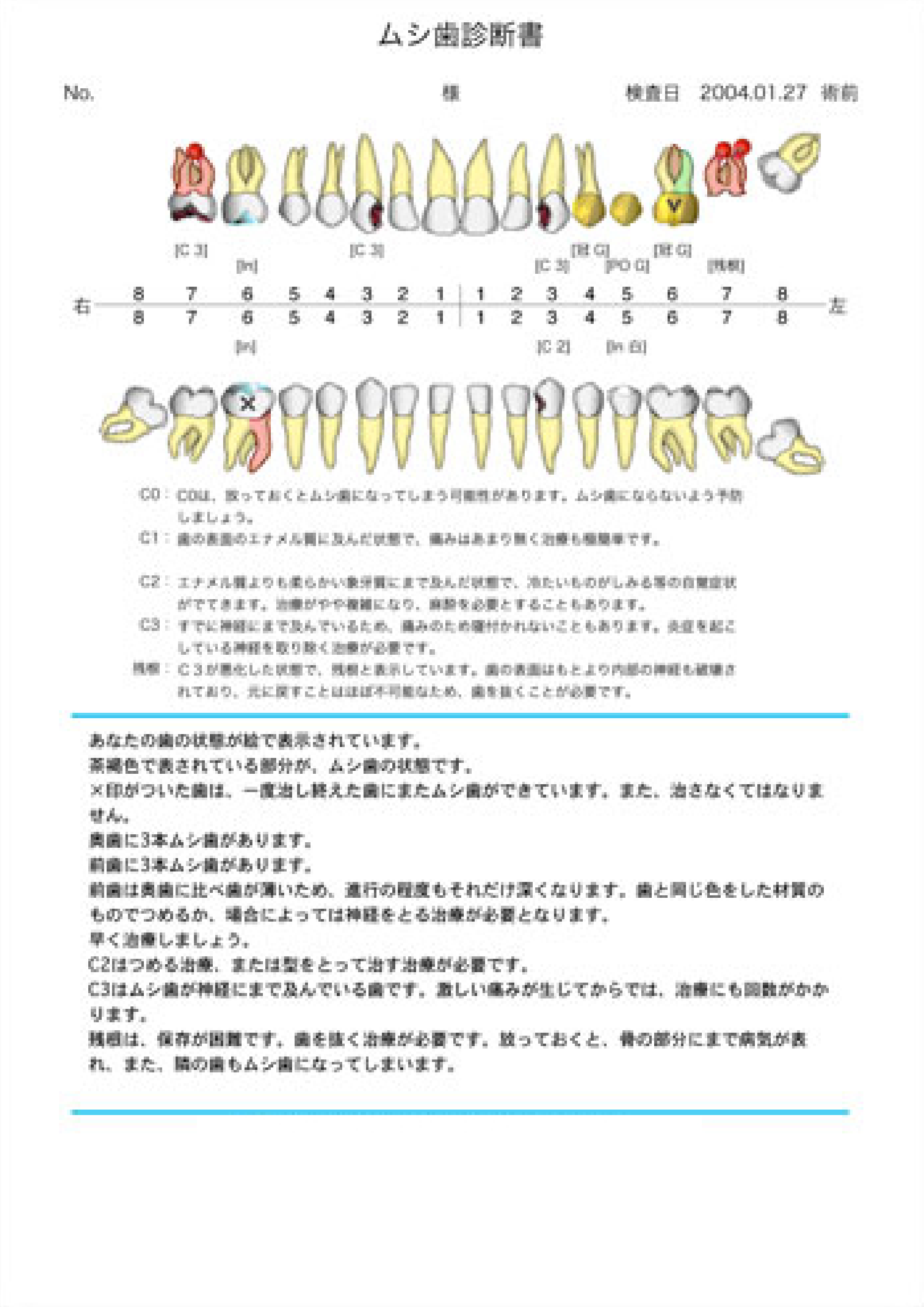


診断書説明

No. 様

C0	歯の表面にムシ歯の初期症状が見られます
C1	歯の表面のエナメル質に穴があいた状態で、まだ痛みのないムシ歯です
C2	エナメル質の下の象牙質にまで及んでいる、進行したムシ歯です
C3	歯髄（神経）にまで及んでいる、かなり進行したムシ歯です
残根	ムシ歯が進行し、歯の上部が崩壊して歯の根っこだけが残った状態です
二次C 再治	一度治療してある歯に異常が見られれる場合に表示されるマークです
シーラント(FS)	歯の溝に、ムシ歯になりにくくするための予防処置が施されています
コア	冠をかぶせる前に歯の中に入れる、土台の状態です
In ア充	金属の詰めもので治療されています
CR充	プラスチックの詰めもので治療されています
In 白 In G	美しさや耐久性、適合性に優れた詰めもので治療されています
FCK 前装冠 JK	金属の冠を被せて治療されています
MB 冠 白 冠 G	美しさや耐久性、適合性に優れた被せもので治療されています
PO	取り外しのできない入れ歯（ブリッジ）の歯のない部分を表します
義歯	取り外しできる入れ歯を表します
Imp	インプラントを表します

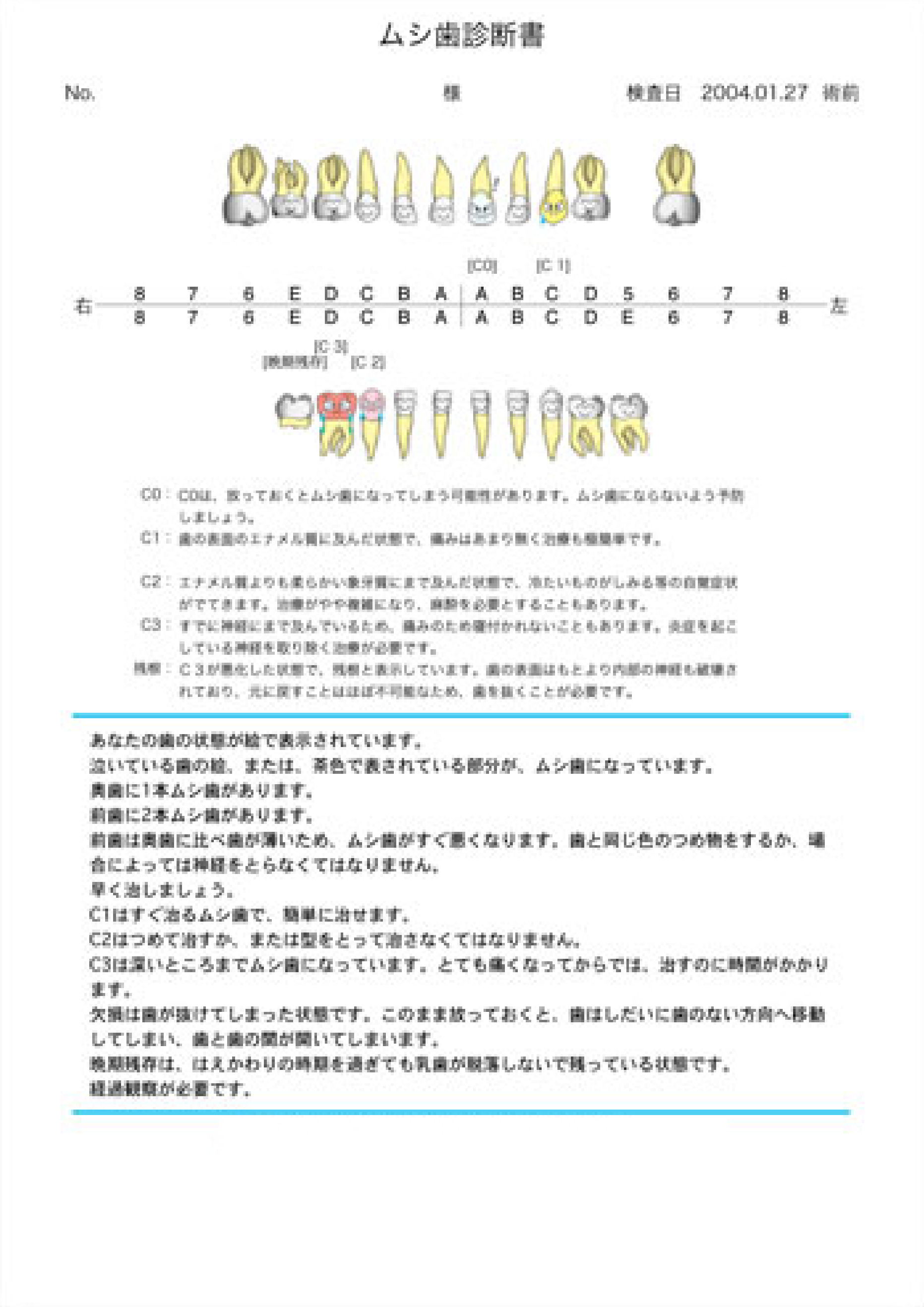


ムシ歯診断書

No. 様 検査日 2004.01.27 術前

C0：C0は、放っておくとムシ歯になってしまう可能性があります。ムシ歯にならないよう予防しましょう。
C1：歯の表面のエナメル質に及んだ状態で、痛みはあまり無く治療も極簡単です。
C2：エナメル質よりも柔らかい象牙質にまで及んだ状態で、冷たいものがしみる等の自覚症状がでてきます。治療がやや複雑になり、麻酔を必要とすることもあります。
C3：すでに神経にまで及んでいるため、痛みのため寝付かれないこともあります。炎症を起こしている神経を取り除く治療が必要です。
残根：C３が悪化した状態で、残根と表示しています。歯の表面はもとより内部の神経も破壊されており、元に戻すことはほぼ不可能なため、歯を抜くことが必要です。

あなたの歯の状態が絵で表示されています。
茶褐色で表されている部分が、ムシ歯の状態です。
×印がついた歯は、一度治し終えた歯にまたムシ歯ができています。また、治さなくてはなりません。
奥歯に3本ムシ歯があります。
前歯に3本ムシ歯があります。
前歯は奥歯に比べ歯が薄いため、進行の程度もそれだけ深くなります。歯と同じ色をした材質のものでつめるか、場合によっては神経をとる治療が必要となります。
早く治療しましょう。
C2はつめる治療、または型をとって治す治療が必要です。
C3はムシ歯が神経にまで及んでいる歯です。激しい痛みが生じてからでは、治療にも回数がかかります。
残根は、保存が困難です。歯を抜く治療が必要です。放っておくと、骨の部分にまで病気が表れ、また、隣の歯もムシ歯になってしまいます。



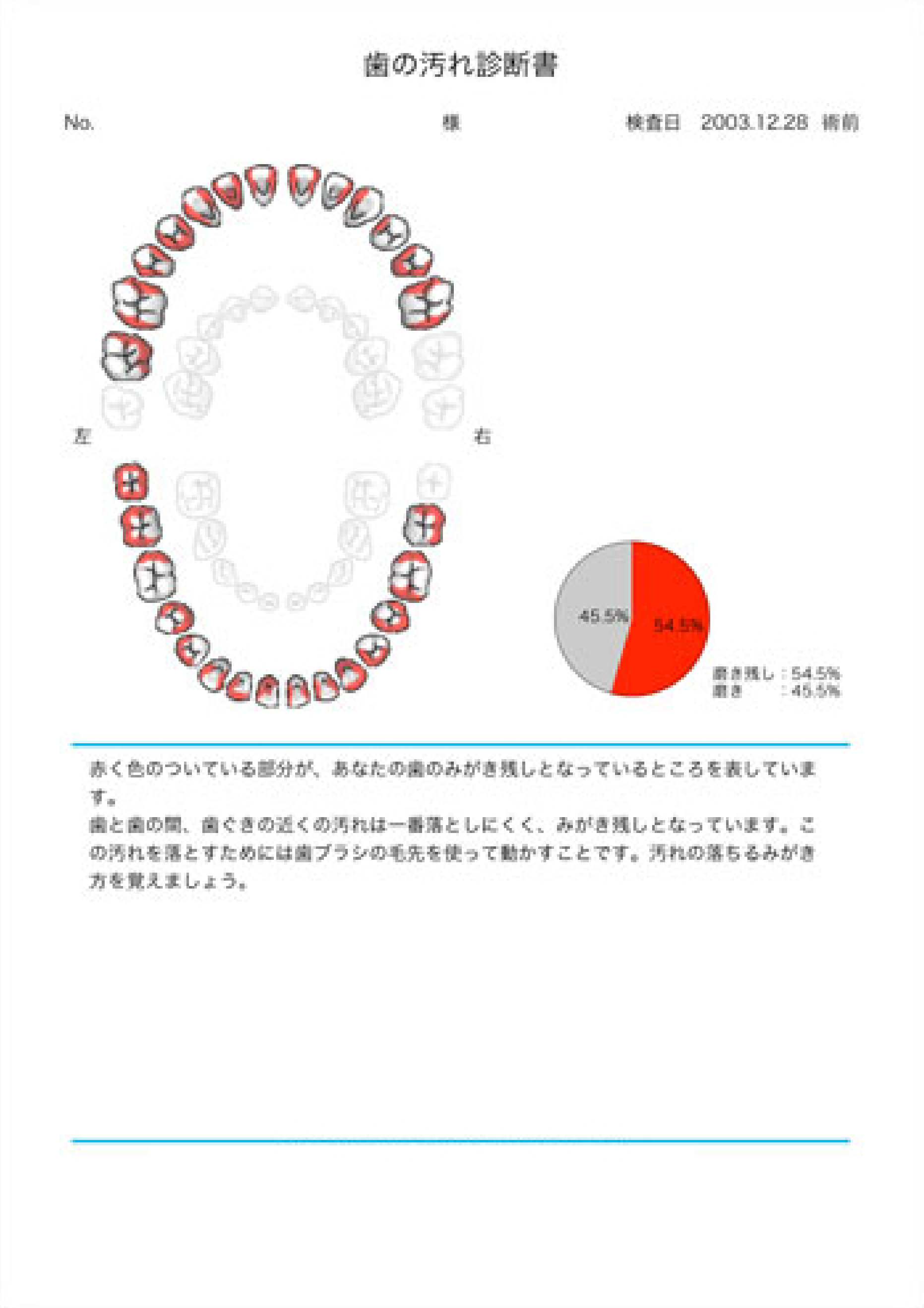
ムシ歯診断書

No. 様 検査日 2004.01.27 術前

[C0]
[C 1]
右
8 7 6 E D C B A A B C D 5 6 7 8
8 7 6 E D C B A A B C D E 6 7 8
左
[C 3]
[晩期残存]
[C 2]

C0：C0は、放っておくとムシ歯になってしまう可能性があります。ムシ歯にならないよう予防しましょう。
C1：歯の表面のエナメル質に及んだ状態で、痛みはあまり無く治療も極簡単です。
C2：エナメル質よりも柔らかい象牙質にまで及んだ状態で、冷たいものがしみる等の自覚症状がでてきます。治療がやや複雑になり、麻酔を必要とすることもあります。
C3：すでに神経にまで及んでいるため、痛みのため寝付かれないこともあります。炎症を起こしている神経を取り除く治療が必要です。
残根：C３が悪化した状態で、残根と表示しています。歯の表面はもとより内部の神経も破壊されており、元に戻すことはほぼ不可能なため、歯を抜くことが必要です。

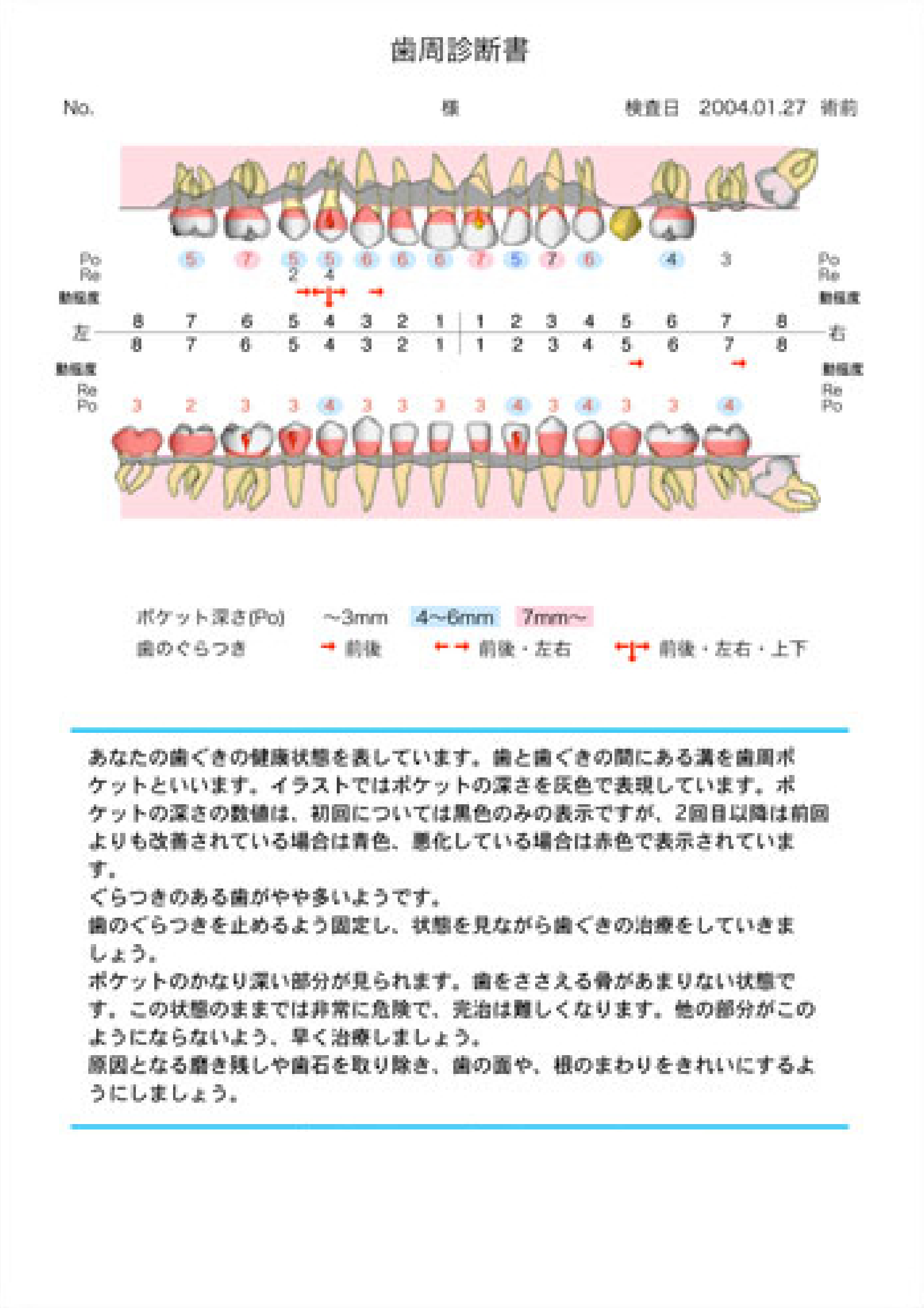
あなたの歯の状態が絵で表示されています。
泣いている歯の絵、または、茶色で表されている部分が、ムシ歯になっています。
奥歯に1本ムシ歯があります。
前歯に2本ムシ歯があります。
前歯は奥歯に比べ歯が薄いため、ムシ歯がすぐ悪くなります。歯と同じ色のつめ物をするか、場合によっては神経をとらなくてはなりません。
早く治しましょう。
C1はすぐ治るムシ歯で、簡単に治せます。
C2はつめて治すか、または型をとって治さなくてはなりません。
C3は深いところまでムシ歯になっています。とても痛くなってからでは、治すのに時間がかかります。
欠損は歯が抜けてしまった状態です。このまま放っておくと、歯はしだいに歯のない方向へ移動してしまい、歯と歯の間が開いてしまいます。
晩期残存は、はえかわりの時期を過ぎても乳歯が脱落しないで残っている状態です。
経過観察が必要です。



歯の汚れ診断書

No. 様 検査日 2003.12.28 術前

赤く色のついている部分が、あなたの歯のみがき残しとなっているところを表しています。
歯と歯の間、歯ぐきの近くの汚れは一番落としにくく、みがき残しとなっています。この汚れを落とすためには歯ブラシの毛先を使って動かすことです。汚れの落ちるみがき方を覚えましょう。

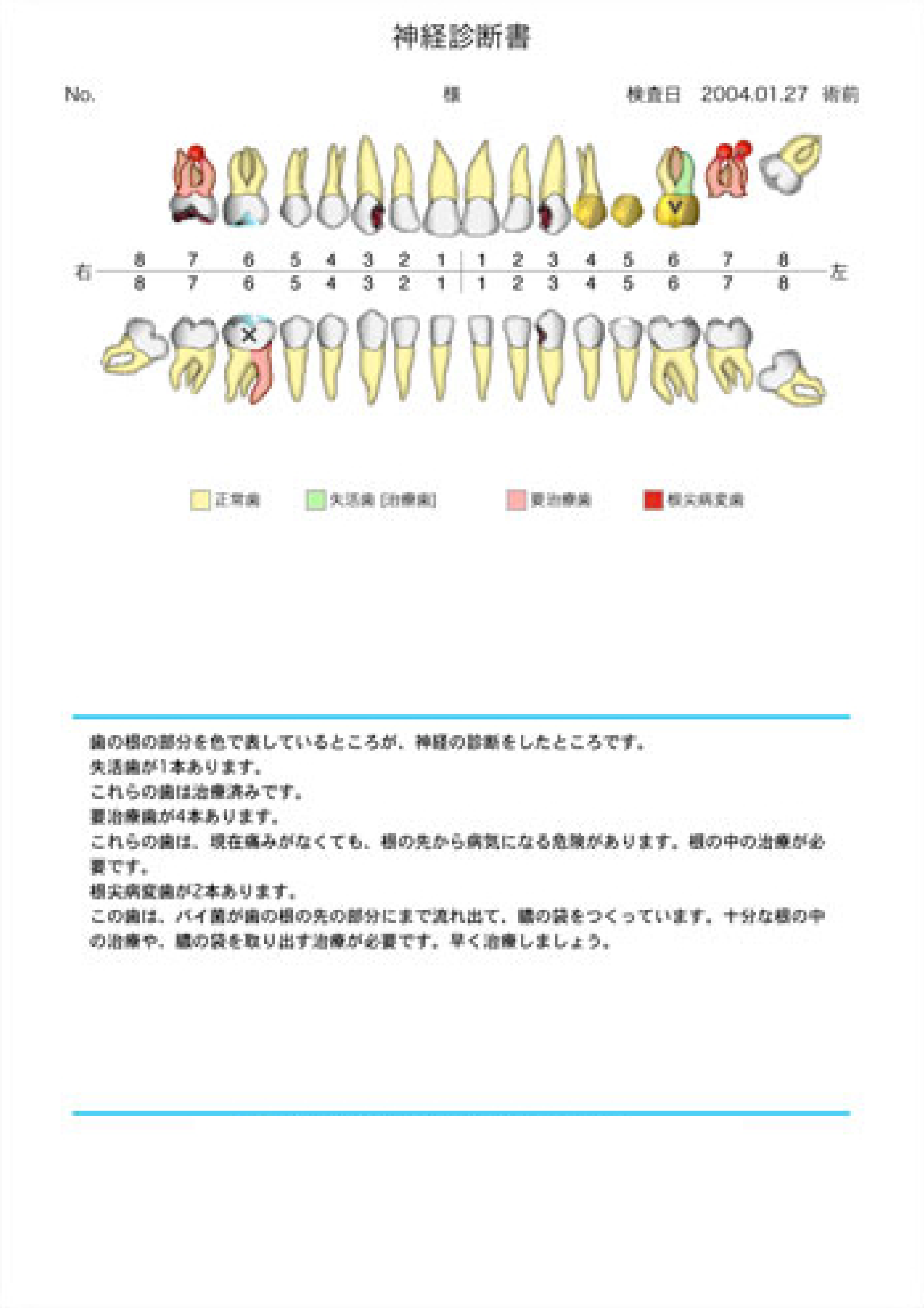


歯周診断書

No. 様 検査日 2004.01.27 術前

ポケット深さ(Po) ～3mm 4～6mm 7mm～
歯のぐらつき → 前後 ←→ 前後・左右 ←┬→ 前後・左右・上下

あなたの歯ぐきの健康状態を表しています。歯と歯ぐきの間にある溝を歯周ポケットといいます。イラストではポケットの深さを灰色で表現しています。ポケットの深さの数値は、初回については黒色のみの表示ですが、2回目以降は前回よりも改善されている場合は青色、悪化している場合は赤色で表示されています。
ぐらつきのある歯がやや多いようです。
歯のぐらつきを止めるよう固定し、状態を見ながら歯ぐきの治療をしていきましょう。
ポケットのかなり深い部分が見られます。歯をささえる骨があまりない状態です。この状態のままでは非常に危険で、完治は難しくなります。他の部分がこのようにならないよう、早く治療しましょう。
原因となる磨き残しや歯石を取り除き、歯の面や、根のまわりをきれいにするようにしましょう。

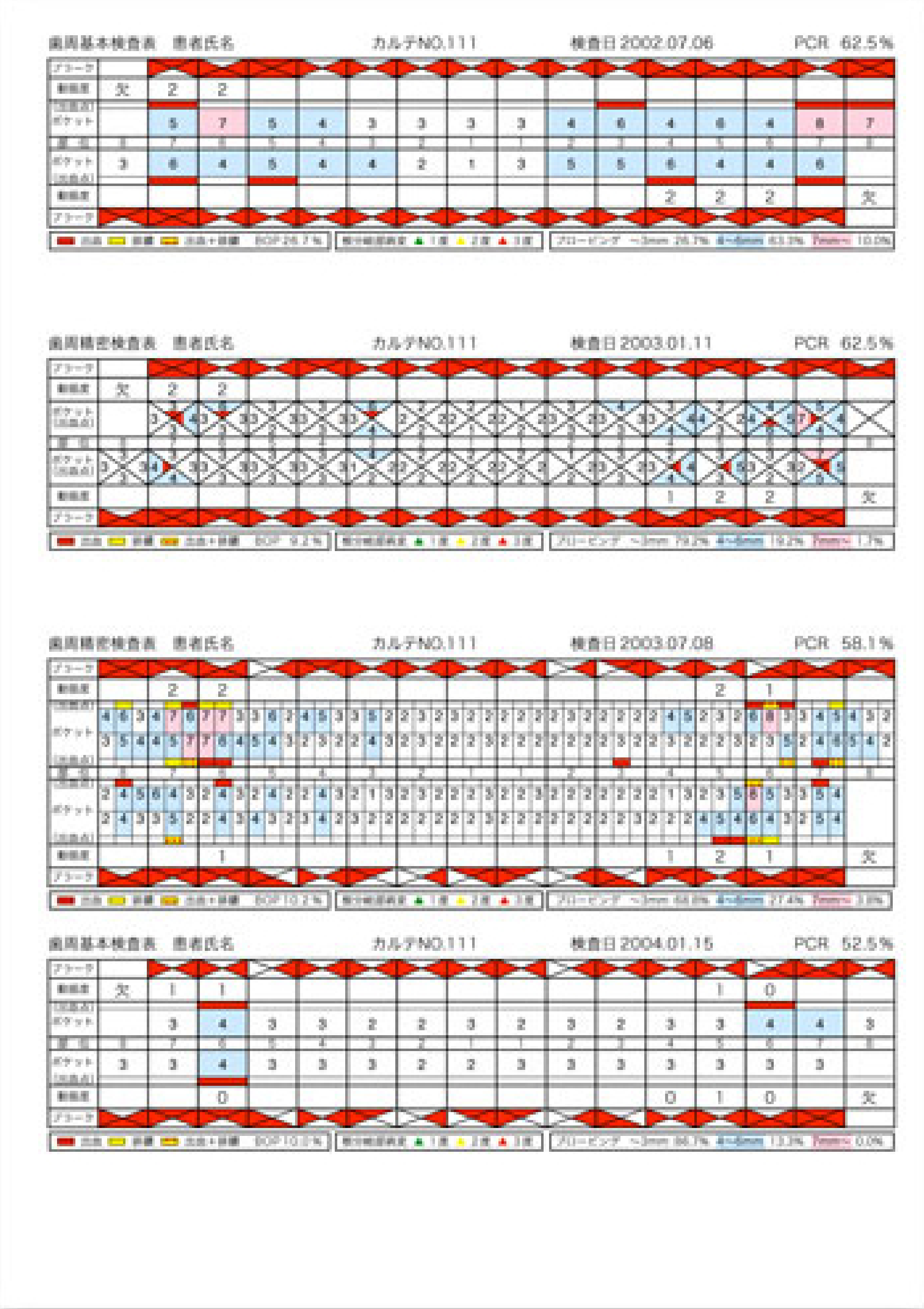


神経診断書

No. 様 検査日 2004.01.27 術前

🟨 正常歯 🟩 失活歯 [治療歯] 🟥 要治療歯 🟥 根尖病変歯

歯の根の部分を色で表しているところが、神経の診断をしたところです。
失活歯が1本あります。
これらの歯は治療済みです。
要治療歯が4本あります。
これらの歯は、現在痛みがなくても、根の先から病気になる危険があります。根の中の治療が必要です。
根尖病変歯が2本あります。
この歯は、バイ菌が歯の根の先の部分にまで流れ出て、膿の袋をつくっています。十分な根の中の治療や、膿の袋を取り出す治療が必要です。早く治療しましょう。

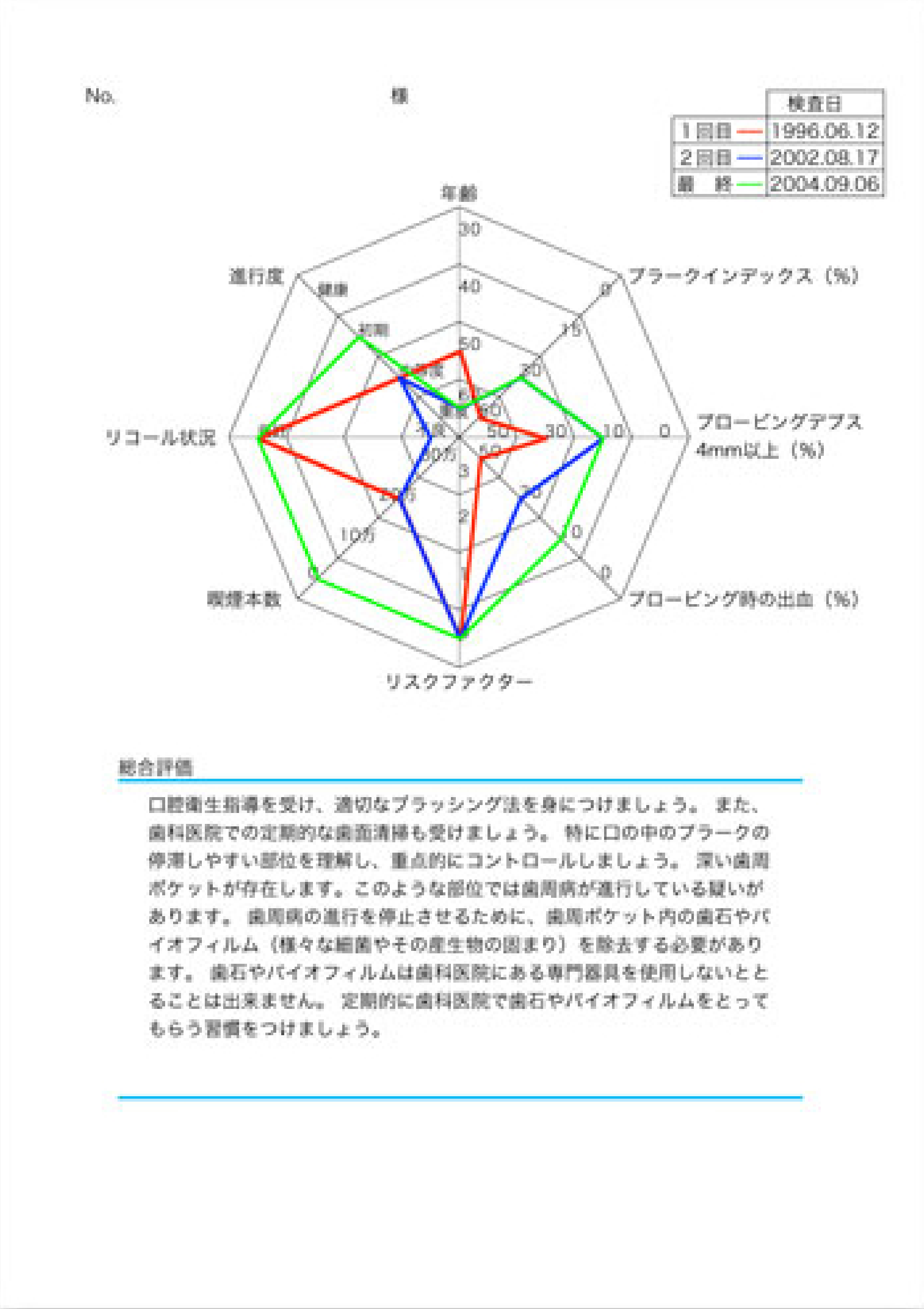


歯周基本検査表 患者氏名 カルテNO.111 検査日 2002.07.06 PCR 62.5%

歯周精密検査表 患者氏名 カルテNO.111 検査日 2003.01.11 PCR 62.5%

歯周精密検査表 患者氏名 カルテNO.111 検査日 2003.07.08 PCR 58.1%

歯周基本検査表 患者氏名 カルテNO.111 検査日 2004.01.15 PCR 52.5%

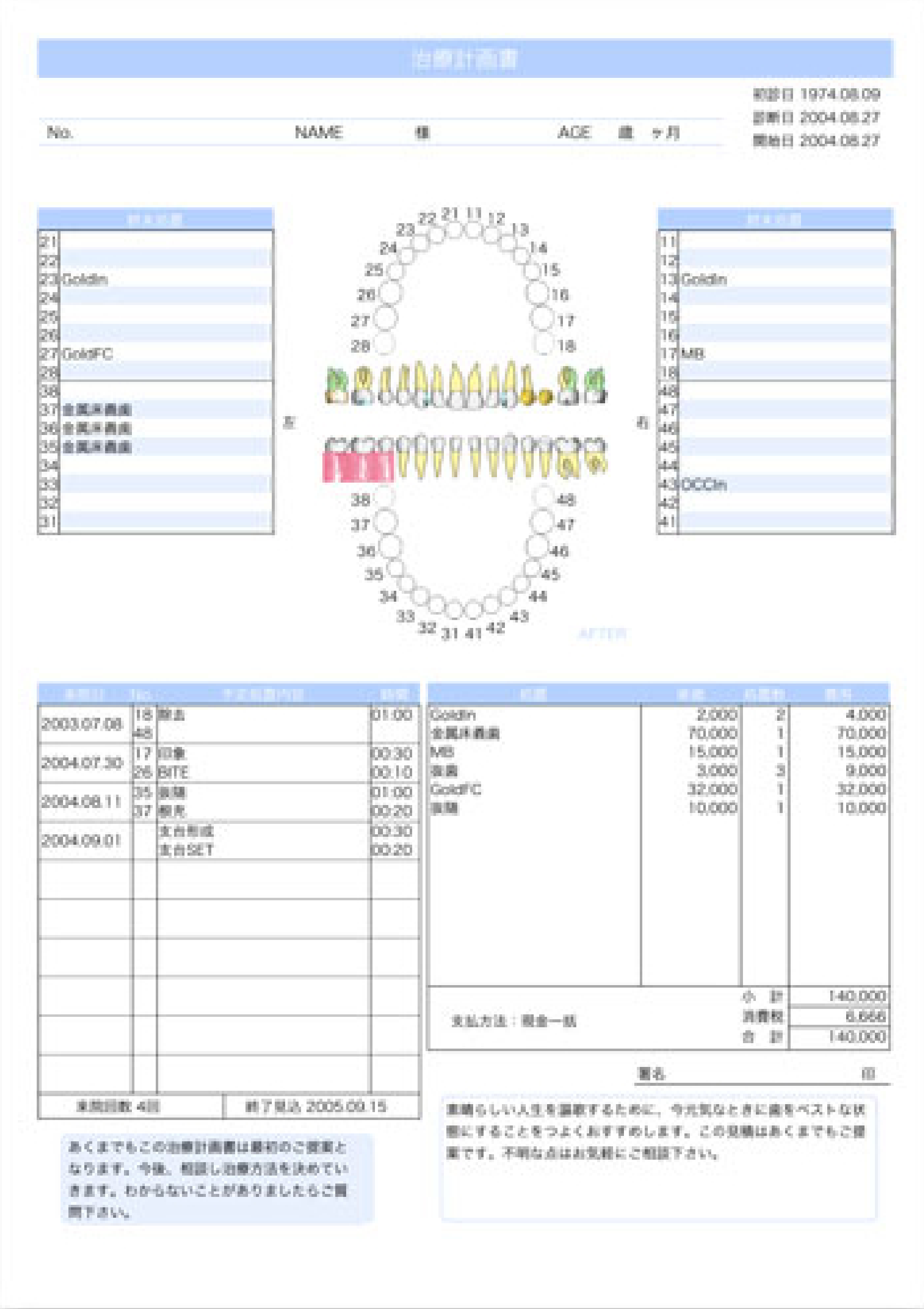


No. 様

	検査日
1回目	1996.06.12
2回目	2002.08.17
最 終	2004.09.06

総合評価

口腔衛生指導を受け、適切なブラッシング法を身につけましょう。 また、歯科医院での定期的な歯面清掃も受けましょう。 特に口の中のプラークの停滞しやすい部位を理解し、重点的にコントロールしましょう。 深い歯周ポケットが存在します。このような部位では歯周病が進行している疑いがあります。 歯周病の進行を停止させるために、歯周ポケット内の歯石やバイオフィルム（様々な細菌やその産生物の固まり）を除去する必要があります。 歯石やバイオフィルムは歯科医院にある専門器具を使用しないととることは出来ません。 定期的に歯科医院で歯石やバイオフィルムをとってもらう習慣をつけましょう。



治療計画書

初診日 1974.08.09
診断日 2004.08.27
開始日 2004.08.27

No. NAME 様 AGE 歳 ヶ月